


平成20年5月27日

浜田市議会議長 牛尾昭様

議員名・代表

大谷弘幸 

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期間 平成20年5月13日～5月15日。

2、視察地 大分県 日田市  
熊本県 宇城市

3、参加議員氏名 湯浅勝 ・ 向博雄  
中松三男 ・ 大谷弘幸  
.  
.  
.

4、精算額 一人当たり 22,188 円

5、調査活動の概要

別紙のとおり

# 1.大分県日田市

## 調査事項

### (1) 文化力によるまちづくりの取り組みについて

この調査事項について日田市では、平成13年12月の文化芸術振興基本法の制定や、平成16年4月の大分県文化振興条例施行等の法的整備を受けて、文化は地域の宝・地域の財産であるとの思いや、「文化力」に対する期待や関心の高まりの背景を受け、総合的な文化の振興によるまちづくりを推進するために平成18年3月に日田市文化振興基本計画を策定。拠点施設として昨年度に日田市民文化会館「パトリア日田」をオープンした。

※地域づくりにおいて「文化力」は極めて重要であるとの認識にたち、文化に対する投資や支出は、地域経済を活性化させる最たるものであるとの信念に基づき、計画性を持った活動を、目的に向けて集中力をもって継続された背景には、市民の文化に対する意識の高さはもとより、市長の熱意と議会の積極的対応があったのだと感じた。

※「パトリア日田」は平成12年度策定の総合計画に盛り込み、同年12月議会で「建設特別委員会」を設置、建設基金の積立とともに建設に向けての具体的取り組みを推進し、総事業費60億3千800万円で19年度に竣工。とても立派な施設であったが、積極的な有効活用や管理運営面からもこれからであるとの印象を受けた。

※基本計画において、その具体的取り組み計画を幅広い分野にわたって示されており、その推進状況について検証する組織として「文化振興会議」を設置されていたが、公募委員を含め広い分野から委員に委嘱されており、施策や事業の成果を的確に検証する組織を確立されており、文化力によるまちづくりに向けての意気込みを感じた。

※江戸時代の町割りが残る豆田町地区は、保存地区として整然とした状況に整備されていたが、駅前周辺を含め市街地の道路は歩道一帯の環境整備を含めて遅れているといった印象を持った。

### (2) バイオマス利活用事業の取り組みについて [現地調査]

筑後川上流域に位置する自然環境豊かな日田市は、温暖化の進展やエネルギーの問題による影響が顕著になっている社会的現況にあつて、ゴミ政策や畜産業に起因した環境問題を行政としての大きなテーマとして捉え、循環型社会の構築にいち早く取り組み、平成17年6月にバイオマス構想を公表、その構想の

中核施設として、バイオマス資源化センターを18年3月に竣工する。  
この一連の取り組みについて調査した。

※バイオマス構想の段階で三点の課題認識

- ①豚の糞尿処理（堆肥センターで豚は取り残されていた）
- ②処理場延命の観点からの生ゴミの処理
- ③地球温暖化対策対処からCO<sub>2</sub>の削減

バイオマス利活用の環境整備に早い時期から取り組まれていた。

※総事業費9億5千万円で平成18年3月に竣工、1日80トンの処理能力中、生ゴミを24トン計画していたが、市民意識の高揚等によって17トンに減少し、その不足分は麦焼酎の粕を投入しており、施設の有効的且つ効率的運営に日々努力されている印象を受けた。

※職員は、管理部門に正職2名、臨時職1名、運転に嘱託2名の体制であった。

※堆肥化された製品は需要に追いつかない状況にあるが、液肥の利用が伸びない現状にあること、国の基準がはっきりしないことが課題であると認識しているとの事であったが、市内には木材バイオマスチップの民間工場もあり、市長の「日本一の環境都市づくり」の熱き思いが広く浸透している成果であるといった印象を強くした。

◎文化の力をもつてのまちづくりを推進するとともに、豊かな自然環境を次世代に受け継ぐ、このテーマに向けての施策を推進し、その歩みを着実に続けておられる熱意に感動するとともに、常に問題意識を持ちつつ可能性を求めての主体的なる行動の重要性を強く認識しました。